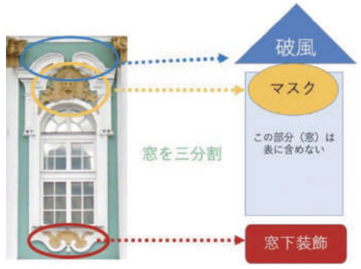
2022年度 優秀賞（論文）

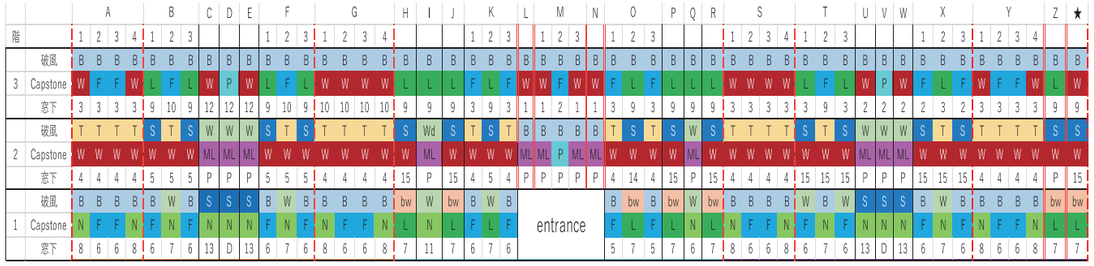
エルミタージュ美術館冬宮ファサードにおける窓 —バルトロメオ・ラストレッリのファサード装飾手法の特質—

大平 七海

ロシアが誇る、開館260年を迎える美術館の意匠研究。エルミタージュ美術館冬宮のファサードについて、設計にあたった建築家バルトロメオ・ラストレッリのデザイン意図を「窓の装飾」に焦点をあてて研究した。「ロ」の字を描く建物は、中庭側を含め8つの立面をもち、窓の総数は723個。当該研究ではそれらの装飾を「破風」「マスク」「窓下装飾」の3部分に分け、計80種類の組合せとその配置をすべての面に対して分析した。その結果、比較的少ないモチーフの組み合わせで、敷地環境や各面の機能にあわせた装飾がなされていることを明らかにした。現地に赴くことが困難となった制約のなか、情報技術を駆使し、日本国内でできる最善を模索した。（指導教員 江本弘）



ファサード分析　窓の３つの分類



ファサード分析例　エルミタージュ美術館冬宮 南玄関（各記号の意味については本文参照）

1. 背景と目的

来年でエルミタージュ美術館は開館260年を迎える。ロシアはこれまでロシア革命や第二次世界大戦などの大きな争いを乗り越えてきた。その激動によって国が変化していく中で、エルミタージュ美術館は現在も国の象徴として残り続けている。では18世紀当時のエルミタージュ美術館冬宮のファサードデザインは、国の顔としてどのような役割を果たし、見る人にどのような印象を与えたかったのか。そして設計者であるバルトロメオ・ラストレッリが何を表現しようとしたかを把握するための知見を得ること、また彼が設計した建築の中で、冬宮はどういった位置付けであったのかについて知ることを目的とする。

2. 既往研究

既往研究には、代表的なものとして次の2件を取り上げる。

① С. Г. Головина Архитектурно-Конструктивные Особенности Жилых Зданий Санкт-Петербурга Второй Половины XVIII Века (УДК 72.035.2)

② Рельефы Летнего дворца: раннее воплощение русской античности*.

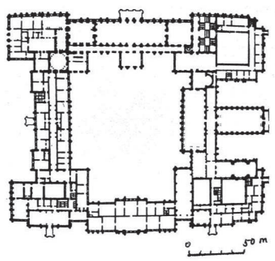
①は18世紀ロシアの住宅建築について、②はエカテリーナ宮殿のレリーフについての研究である。①では、18世紀ロシアの住宅建築における構造や建材についての見解が示されていた。屋根や壁の構造についても触れられていたが、細かいデザインなどについては述べられていなかった。②では、歴史を辿りながら、関わった人物やエカテリーナ宮殿を彩るレリーフのデザインについて言及されていた。この研究方法を参考とし、本研究では冬宮におけるバルトロメオ・ラストレッリのデザイン手法に焦点を当て、彼のデザイン的特徴が現れるファサードに絞って研究を行う。

3. 本研究の位置付け

既往研究において、18世紀におけるロシア建築を対象として、宮殿建築及びエルミタージュ美術館冬宮のファサードを分析した研究は管見の限り見受けられない。エルミタージュ美術館のファサードは、建築家バルトロメオ・ラストレッリのデザイン的特徴を残しているため、建築家の歴史的観点から検討を行うのに適した対象であると考えられる。すなわち本研究は、エルミタージュ美術館冬宮を対象として、バルトロメオ・ラストレッリの建築的特徴を検討するものであり、その成果は彼のファサード・デザインにおける知見を提供するものと考える。また、表による分析を通してファサード・デザインが与える印象や意味の一端を明らかにすることは、受け手側の印象を捉えるだけではなく、ラストレッリ（建築家の歴史）についてのケーススタディとして有効であると考える。よって本研究を通して得られる成果は、バルトロメオ・ラストレッリに関する研究の一助になると考える。

4. 研究方法

バルトロメオ・ラストレッリと、エルミタージュ美術館冬宮に焦点を当て、文献収集を行った。文献は日本語だけに留まらず、英語・ロシア語のものも収集した。また、文献やその他の資料からエルミタージュ美術館冬宮のファサード、外側4面、中庭側4面の合計8面のファサードの分析を行い、表を作成した。比較対象として、使用方法が類似し、かつ冬宮と同じくバルトロメオ・ラストレッリによって建設されたことから、エカテリーナ宮殿、別名夏宮を選択した。そして２つの相違点について調査した。



エルミタージュ美術館冬宮１階平面図

William Craft Brumfield, A History of Russian Architecture, Seatle&London: University of Wasington Press, 1993, p.247.

5. エルミタージュ美術館 冬宮と建築家バルトロメオ・ラストレッリ

エルミタージュ美術館とは、ロシアのサンクトペテルブルクに位置する、18世紀に建設された美術館である。小エルミタージュ・旧エルミタージュ・新エルミタージュ・エルミタージュ劇場・冬宮の5つの建物から構成されている。それぞれの建物に担当の建築家がいたが、代表的な建築家としてあげられるのは、イタリア人建築家のフランチェスコ・バルトロメオ・ラストレッリである。バルトロメオ・ラストレッリは、出生当時はフランスにいたが、彼の父親であるカルロ・ラストレッリが彫刻家で、ピョートル大帝の招待で共にロシアへ移住したことで、ロシアと密接に関わることとなった。

6. ファサード分析

エルミタージュ美術館冬宮のファサード分析について述べる。冬宮のファサードは、宮殿全体の外側にある４つの面と、中庭側にある４つの面の両方を合わせ、合計で8つの面を観覧できる。外側のファサードは北と南の横幅が約790フィート（241m）であり、西と東が約600フィート（183m）である。建物全体の高さは約30mで、3階建てである。ファサード分析にあたり、本研究ではエルミタージュ美術館の窓を破風・マスク（彫刻）・窓下装飾の3つに分類して考察を行った。その内容は以下の通りである。

破風とは、図のような、窓の最も上に位置する部分を指す。種類は、S（櫛形）、B（橋型）、W（羽型）、bw（橋＆羽型）、T（三角型）の5種類に分けられる。次にマスクは、破風の下に設置された、黄土色の彫刻をさす。種類は、L（ライオン）、ML（男性＆ライオン）、P（梨）、C（船の帆）、S（貝）、W（戦士）、F（女性）、E（鷲）、A（天使）、N（無し）の10種類に分けられる。最後に窓下装飾は、22種類あり、それぞれに番号を付けて分類している。それらを、実際の冬宮のファサードと照らし合わせたものの一例が、上表である。それぞれの階層によって先程の破風・マスク・窓下装飾の3つに分類している。破風とマスクの分類には色を用い、一目で全体を確認できるように工夫した。

冬宮のファサード分析を行うとともに、比較対象として同じくラストレッリが建設を担当したエカテリーナ宮殿の分析も行った。エカテリーナ宮殿のファサードと比較した結果、二つの宮殿は形が異なるため、破風・マスク・窓下装飾の種類数も違い、エカテリーナ宮殿には冬宮の2倍の種類があるとわかった。

7. 結論

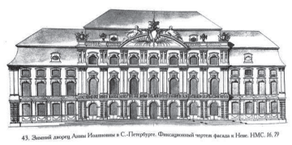
結論として、次の4つが挙げられる。

①既往研究では窓が1462個と組み合わせが33種類あると述べてられていたが、本研究では窓が723個と、組み合わせは80種類だった。本研究では、窓を3種類に分けて組み合わせを数えたが、既往研究では破風とマスクを1つのセットとして数え、窓下装飾との組み合わせを数えたようだった。しかしそれに従っても24種類で、合致しなかった。

②南玄関は戦士やライオンの彫刻が多く施され、客人を迎え入れるための豪快な装飾で、皇帝の権力を示しているようなデザインだった。北の川に面したファサードは、ネヴァ川や海から船で訪れる客人を意識したのか、船の帆や貝の形をした彫刻が多く見られた。西の公園に面したファサードは、川や橋から来る訪問者が玄関に向かう流れを示すように、貝の彫刻が続いていた。また、表側ファサード4面の中で最も整ったシンメトリーとなっていた。東側は、ファサードを把握できたのは一部であったが、過去に皇帝たちの裏口として使用されていたことが判明したため、公にできないものがいまだに設置されていると推測できる。

③2つの宮殿を比較した結果、冬宮は少ない種類の彫刻モチーフを活用して賑やかなファサードを生み出していたことがわかった。それを実現できたのは、破風と窓下装飾との組み合わせの豊富さが理由と考える。

④これらの結果から、ラストレッリにとって冬宮とは、皇帝たちの権力を表現するとともに、客人たちをもてなし楽しませるための建物だったのではないかと考える。



エルミタージュ美術館冬宮 ファサード

Зигмунт Батовский, Архитектор Растреллиосвоих Творениях, Ю. М. Денисов, сост., Санкт-Петербург: СтудияАлександра Зимина, 2000, p.80.